



## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年11月8日

上場会社名 キッズウェル・バイオ株式会社  
コード番号 4584 URL <https://www.kidswellbio.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷 匡治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長 (氏名) 栄 靖雄

TEL 03 - 6222 - 9547

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,116		11		42		42	
2022年3月期第2四半期								

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	1.36	
2022年3月期第2四半期		

(注)1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 当社は、2022年3月期第2四半期は連結業績を発表していましたが、当第2四半期は非連結での業績発表としております。そのため、2022年3月期第2四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,259	1,699	35.2
2022年3月期	3,470	1,702	43.8

(参考)自己資本 2023年3月期第2四半期 1,500百万円 2022年3月期 1,518百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,900		980		999		1,000		31.80

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は主として年次での業績管理を行っていることから、通期の業績予想のみ記載しております。

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	31,471,147 株	2022年3月期	31,437,547 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	92 株	2022年3月期	92 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	31,445,380 株	2022年3月期2Q	30,270,727 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、「バイオで価値を創造するーこども・家族・社会をつつむケアを目指してー」を目標に掲げ、これまでの事業活動で得てきたバイオ技術に関するノウハウ及び知見を最大限活用し、従来より手掛けてきた希少疾患、難病に加えて、小児疾患を重点的なターゲットと定め、これらの疾患に悩む患者様、そのご家族や介護者の方を含めた包括的なケアを目指して、新薬のみならず新たな医療の開発・提供に取り組んでおります。上述の目標を達成するために、バイオ後続品事業、バイオ新薬事業、細胞治療事業（再生医療）の3つを主要事業とした研究開発活動を推進しております。バイオ後続品事業においては、安定的な収益基盤を確立させると共に、我が国の医療費削減を目的としたジェネリック医薬品の普及政策を背景に、患者様へ新たな治療の選択肢と、より安価な治療を届けられるよう事業展開を図っております。バイオ新薬事業及び細胞治療事業（再生医療）においては、未だ世にない画期的な治療法の開発を目的に、新たな医薬品を創出するというチャレンジを鋭意推進し、その成長性を追求しております。このような状況の中、当社は2022年5月12日に新たに中期経営計画-KWB2.0-を公表し、上述の各事業における今後の具体的な戦略方針と成果目標をコミットし、さらなる成長に向けて活動を強化しております。

当第2四半期累計期間における各事業の進捗状況は以下のとおりであります。

#### ① バイオ後続品事業

富士製薬工業㈱と持田製薬㈱による好中球減少症治療薬「フィルグラスチムBS」の原薬販売及び2019年11月27日より販売が開始された㈱三和化学研究所と共同開発を行っていたダルベポエチンアルファバイオ後続品の売上高に応じたロイヤリティによる収益を安定的に計上しております。また、千寿製薬㈱と共同開発を行ってきたラニビズマブバイオ後続品について、2021年9月27日付で、同社が国内での製造販売承認を取得し、2021年12月9日に上市されました。上市後の売上高は順調に推移しておりますが、想定を超える受注により、さらなる売上増が見込まれることから今後の経営基盤を支える収益源としての役割が期待されます。その他、開発中のパイプラインについても着実に開発活動を推進しております。

#### ② バイオ新薬事業

次世代型抗体医薬品等の研究開発を進めた結果、2020年1月にがん細胞内侵入能力を有する抗体を用いた抗がん剤の開発を目的として札幌医科大学との共同研究契約、同じくがん細胞殺傷効果を有する新たな抗体の取得を目的としてMabGenesis㈱との共同研究契約をそれぞれ締結しました。また、2022年5月には㈱カイオム・バイオサイエンスとの抗体医薬品開発に関する共同研究契約を締結し、当社が保有するがん領域の抗体医薬品の開発候補品について、両社の技術・知見を組み合わせて共同研究を行うことを目的に開発活動をスタートさせております。その他、開発中のパイプラインについても着実に開発活動を推進しております。

#### ③ 細胞治療事業（再生医療）

当社は、再生医療事業の研究開発において、重要な研究ソースとして、主に乳歯歯髄幹細胞（SHED）を活用したプロジェクトの推進、アカデミア及び企業との共同研究又は提携を推進しております。

SHEDについては、SHEDの疾患に対する適性を見極め、骨及び神経疾患といった分野で新たな治療法を提供できる可能性を複数のアカデミア及び企業に評価いただき、それぞれ研究開発活動を推進しております。複数のアカデミア及び企業と研究開発を進めていく中で、SHEDを基盤とした治療法開発の可能性に関して着実に成果が得られつつあり、当社の成長ドライバーであるSHEDを活用した世界初の細胞治療・遺伝子治療製品等の創出を目指してまいります。

そのほか、将来の成長戦略として、高い治療目標を達成するために強化型細胞治療「デザイナー細胞」の具体的な進捗として、2021年9月8日にナノキャリア㈱と共同研究契約を締結、さらには同12月6日には㈱バイオメテイクスシンパシーズと疾患指向性のあるSHEDを取得可能とする新規培養法の開発に係る委託開発契約をそれぞれ締結し、開発活動を本格化させております。

また、再生医療分野での事業を進展させていくための重要なステップとして、SHEDを再生医療等製品として製品化するための基盤として開発を進めてきたSHEDマスターセルバンク（MCB）が2022年8月に完成しました。これにより、SHED製造の原料となる乳歯を提供頂く体制構築のための「ChiVo Net 未来医療子どもボランティアネットワーク」、東京大学医学部附属病院、昭和大学歯科病院、それぞれとの連携から、㈱ニコン・セル・イノベーションのGMP/GCTP対応製造施設において細胞培養、MCBのGMP製造を行うまでの一連の体制（S-Quatre<sup>®</sup>）を構築することができました。加えて、2022年9月には、昭和電工マテリアルズ㈱と再生医療等製品の製法開発及び治験薬製造に関する基本取引契約を締結し、上述の体制下において製造された信頼性の高い高品質なSHEDマスターセルバンクを活用した治験薬製造に向けて、開発活動を加速させております。以上の試みを通して当社における再生医療等製品の研究・開発活動をさらに一層加速すると共に、アカデミアや企業との連携による研究・開発パイプラインの強化をより確実に進めてまいります。

なお、これまでSHEDと共に取り組んでまいりました心臓内幹細胞（CSC）に関するパイプライン（JRM-001）については、将来の上市を目指したパートナーリング活動を継続する中で、心疾患領域における研究開発経験・ノウハウを保有する㈱メトセラに当該事業を譲渡し、同社が主体となって開発を行っていただくことが最善と判断したた

め、JRM-001の開発を行う当社の完全子会社である(株)日本再生医療の全株式譲渡を2022年4月4日付で決議し、実行いたしました。今後も当社による開発活動の支援を継続いたします。

これらの結果、当第2四半期累計期間における売上高は1,116,111千円、営業利益は11,137千円、経常損失は42,082千円、四半期純損失は42,687千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末比22.8%増の4,259,946千円となりました。これは主に、仕掛品が284,308千円減少したものの、現金及び預金が713,584千円、売掛金が188,842千円、前渡金が259,746千円増加したことによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末比44.9%増の2,560,196千円となりました。これは主に、受注損失引当金が475,243千円、契約負債が216,000千円減少したものの、長期借入金（1年内返済予定含む）が975,000千円、転換社債型新株予約権付社債が500,000千円増加したことによるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末比0.2%減の1,699,749千円となりました。これは主に、資本金が12,353千円、資本剰余金が12,353千円、新株予約権が14,822千円増加したものの、四半期純損失を42,687千円計上したことによるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、1,874,518千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は709,001千円となりました。これは主に、棚卸資産の減少270,537千円があったものの、受注損失引当金の減少475,243千円、売上債権の増加188,842千円、前渡金の増加259,746千円、契約負債の減少216,000千円があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は23,745千円となりました。これは主に、関係会社貸付金の回収による収入が26,254千円あったものの、投資有価証券の取得による支出50,000千円があったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は1,446,330千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出25,000千円があったものの、長期借入れによる収入970,000千円、転換社債型新株予約権付社債の発行による収入499,720千円があったことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月12日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,160,934	1,874,518
売掛金	461,854	650,697
製品	200,118	213,888
仕掛品	788,696	504,388
前渡金	495,544	755,290
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	600,000	—
その他	161,537	36,444
貸倒引当金	△573,745	—
流動資産合計	3,294,940	4,035,227
固定資産		
有形固定資産	1,641	1,558
無形固定資産	3,064	2,680
投資その他の資産	170,690	220,479
固定資産合計	175,396	224,719
資産合計	3,470,336	4,259,946
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	45,479	117,344
1年内返済予定の長期借入金	75,000	300,000
未払金	252,760	192,250
未払法人税等	37,832	32,558
契約負債	216,000	—
受注損失引当金	475,243	—
その他	8,851	9,487
流動負債合計	1,111,168	651,641
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	100,000	600,000
長期借入金	525,000	1,275,000
退職給付引当金	31,260	33,555
固定負債合計	656,260	1,908,555
負債合計	1,767,428	2,560,196
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,421,212	1,433,566
資本剰余金	10,726,813	10,739,166
利益剰余金	△10,629,570	△10,672,257
自己株式	△73	△73
株主資本合計	1,518,382	1,500,401
新株予約権	184,525	199,348
純資産合計	1,702,908	1,699,749
負債純資産合計	3,470,336	4,259,946

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	1,116,111
売上原価	420,954
売上総利益	695,156
販売費及び一般管理費	
研究開発費	251,787
その他	432,230
販売費及び一般管理費合計	684,018
営業利益	11,137
営業外収益	
受取利息	5
資材売却収入	2,250
雑収入	360
営業外収益合計	2,615
営業外費用	
支払利息	13,664
社債利息	676
株式交付費	389
支払手数料	30,000
為替差損	10,553
雑損失	551
営業外費用合計	55,835
経常損失(△)	△42,082
税引前四半期純損失(△)	△42,082
法人税、住民税及び事業税	605
法人税等合計	605
四半期純損失(△)	△42,687

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純損失(△)	△42,082
減価償却費	466
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△475,243
受取利息及び受取配当金	△5
支払利息	13,664
社債利息	676
支払手数料	30,000
売上債権の増減額(△は増加)	△188,842
棚卸資産の増減額(△は増加)	270,537
前渡金の増減額(△は増加)	△259,746
仕入債務の増減額(△は減少)	71,865
未払金の増減額(△は減少)	△60,810
契約負債の増減額(△は減少)	△216,000
その他	167,330
小計	△688,189
利息及び配当金の受取額	5
利息の支払額	△19,607
法人税等の支払額	△1,210
営業活動によるキャッシュ・フロー	△709,001
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
投資有価証券の取得による支出	△50,000
関係会社貸付金の回収による収入	26,254
その他	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,745
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	970,000
長期借入金の返済による支出	△25,000
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	499,720
その他	1,610
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,446,330
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	713,584
現金及び現金同等物の期首残高	1,160,934
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,874,518

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。